

題名：令和2年度に発表した病虫害発生予察情報

(スライド1)

令和2年度に発表した病虫害発生予察情報について、埼玉県農業技術研究センター、病虫害防除対策担当宮田より発表させていただきます。

(スライド2)

始めに当担当が行う、病虫害防除所としての業務について説明します。

業務の一つである病虫害発生予察では、県の主要な農作物において、月に2回、病虫害の発生調査を行っています。また病虫害の発生状況を分析し、防除対策に役立つ予察情報や調査データをホームページで発表することにより、的確な防除を推進しています。

(スライド3)

次に予察情報について説明します。

1つ目が毎月発表している病虫害発生予報です。翌月の病虫害の発生量を予測し、発表しています。

2つ目として、例年とは異なる発生状況が見られた場合、防除情報、注意報、警報のいずれかを発表しています。今後、多発生が予測される病虫害について、特徴や防除方法をまとめたものになり、緊急性の高さの違いによって種類を分けています。

3つ目が特殊報です。県内で初めて発生が確認された病虫害について、まとめたものになります。

近年では異常気象や気象変動に伴い、病虫害の発生状況も変化しつつあります。ぜひこれらの予察情報を活用し、早めの防除対策を実施してください。

(スライド4)

こちらが今年度発表した注意報、防除情報、特殊報の一覧になります。警報の発表はありませんでした。本日はこの中から抜粋して、イネいもち病、トビイロウンカ、ミナミアオカメムシについて説明します。また今後、画面右上に表示されます、QRコードより該当する予察情報が閲覧できますので、ご覧ください。

(スライド5)

まず初めに注意報を発表した、「イネいもち病」について説明します。イネいもち病は、糸状菌による病害であり、低温多湿によって発生が助長されます。7月に発表したいもち病の注意報は、以下の3点の根拠をもとに発表しました。

根拠の1点目は発生地点率です。7月に行った調査において、過去10年間で3番目に多く葉いもちの発生が確認されました。

(スライド6)

根拠の2点目は感染好適日の日数です。気象条件が葉いもちの感染に好適であった日数は過去10年間で最も多く、平年値の2倍以上でした。

そして根拠の3点目は気象予報です。8月は降水量が多く、日照時間が少ないという予報であったことから、今後、発生拡大や穂いもちへの移行が懸念されたため、注意報を発表しました。

(スライド7)

ここで根拠の2点目になっている葉いもち感染好適日について説明します。

いもち病発生予測システム「BLASTAM」によって判別されており、BLASTAMとはアメダスデータより、その日の気象状況が葉いもちの感染に適していたか、判定するシステムです。図のように黒丸で示された部分が感染好適日となっています。病虫害防除所では、防除時期の判断材料として、感染好適日を集計したデータを発表しています。

防除対策として、今年度多発生が見られた地域におきましては、種子更新を行うとともに、病虫害防除所の情報を活用し、早めの防除を実施してください。

(スライド8)

次に防除情報を発表した、トビイロウンカについて説明します。

トビイロウンカは毎年、中国大陸から飛来してくる害虫です。イネの株元に寄生し、吸汁加害します。被害株は枯死し、写真のように被害が丸く広がることで、坪枯れが発生します。

今年度は西日本を中心に多くの被害が報告されました。埼玉県におきましては、気象予報データによる県内への飛来予測日が平年より多く見られ、県内では約50年振りとなる坪枯れ被害の発生を確認しました。

(スライド9)

トビイロウンカは九州以北での越冬は困難とされています。そのため、毎年飛来によって発生する害虫ではありますが、来年度以降も県内まで飛来してくる可能性が考えられますので、防除対策をしっかりと行いましょう。

トビイロウンカは写真のように株元に集まって寄生します。ウンカ類を対象とした箱施用剤の使用に加え、株元を良く観察し、寄生が見られた場合は薬剤散布を実施してください。

(スライド10)

最後に特殊報を発表した、ミナミアオカメムシについて説明します。

ミナミアオカメムシは露地野菜ほ場において、県内初の発生を確認しました。もともとは暖かい地域に生息する種類のカメムシですが、近年での高温傾向により生息地域が拡大し、関東地方でも発生が報告されています。

成虫の体色は緑色であり、触覚に着色部があること、背中の小楯板上端に白い斑点が3つあることが特徴としてあげられます。また見た目が似ているアオクサカメムシと区別する場合は、翅の下、腹部の背面の色を確認してください。ミナミアオカメムシが一面緑色であるのに対し、アオクサカメムシは一部が黒色となっています。

(スライド11)

ミナミアオカメムシは極めて食性が広く、水稻や大豆、野菜類、果樹類を加害します。

水稻では斑点米の原因となり、他のカメムシよりも吸汁量が多いため、低密度でも被害が大きくなるとされています。

ほ場においてミナミアオカメムシの発生を確認した場合は、各作物のカメムシ類に登録のある薬剤を用いて、防除を行ってください。

(スライド12)

最後に病害虫防除所では病害虫の発生や防除に関する様々な情報を病害虫防除所ホームページで発信しています。ぜひご活用ください。

発表は以上となります。最後までご視聴いただき、ありがとうございました。